



1 匠通り・JR高山駅（高山市）

管内概要

飛騨森林管理署は東に日本の屋根といわれる飛騨山脈の岐阜県北部山岳地域（乗鞍岳、御嶽山等）、西に白山といった、3km級の山々に囲まれた、宮・庄川流域を森林計画区として2市1村に広がる国有林11万7千ヘクタールの森林を管理しています。

当署管内は、ブナやミズナラ等の天然林が60%、カラマツ・スギ・ヒノキ等の人工林が30%、山岳地帯が10%を占めています。

この地域の森林は、日本海側の石川県、富山県、太平洋側の岐阜県、愛知県の水源林としての機能や山地災害防止などの重要な役割を担っています。また、飛騨山脈や御嶽山、白山などの山岳地域は、貴重な動植物の生息地域としてのほか、観光や登山など森林レクリエーションや高地トレーニングの場としても広く利用されています。

さらに、世界文化遺産、合掌造りの白川郷として有名な「白川村」では、霊峰白山の山岳地帯に崩壊地や荒廃溪流が点在しており、村の森林の半分を占める国有林においては、溪間工や山腹工事などの治山事業にも取り組んでいます。



飛騨森林管理署管内図

署の基礎データ

所在地	岐阜県高山市西之一色町3丁目 747-3
区域面積	332,653ha
うち森林面積	308,330ha
国有林	117,274ha（国有林率 38.0%）
管轄区の関係市町村	2市1村 高山市、飛騨市、白川村

飛騨森林管理署HPアドレス：<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/hida/index.html>

「飛騨の匠」のものづくり



歴史を遡ること千三百年前の奈良時代、飛騨地域の有する技術が都の造営等に「税を免じてまでも必要」と認められ、飛騨の技術者は賦役が制度化されていきました。この技術者達は「飛騨の匠」と呼ばれ、古くからその技術が高く評価されていきました。

昨年10月には、JR高山駅の駅舎が、飛騨地域の森林資源やそれに支えられたものづくりの文化を象徴する建物として完成しました。駅の東西出口を結ぶ「匠通り」には、壁や天井に国有林材を含む地域のヒノキが使われるとともに、飛騨高山のものづくりの技術を活かした製作物が展示されており、高山を訪れた多くの方々を魅了しています。

飛騨地域では、このような「飛騨の匠」の文化・技術を受け継いだ「飛騨の家具」が国内外に有名です。大正時代に外国人旅行者から伝えられた曲木技術を用いて家具を製作したのがきっかけで、飛騨地域では、地域のブナを主体とする広葉樹を利用した脚物家具製作が盛んになりました。

一方で、改めて地元の資源を活かそうという動きもあります。「地元」に木が豊富にあるのに、輸入材で家具を作る」ことに違和感を覚えたことをきっかけに、飛騨産業(株)では、地元のスギを活用するために、十数年前よりスギ材の圧縮加工を始めました。従来の曲木技術との組み合わせにより、デザイン性が高い、耐久性のある椅子やテーブルが職人技により仕上げられており、新たな素材としての価値が生まれています。地域における資源を活用し、循環させていくことが求められており、国有林では地域と連携し、これらのニーズに応えるための森林づくりや木の



2 グッドデザイン賞金賞のダイニングチェア



3 スギの圧縮材

の文化を支える木材(文化材)の安定供給に努め、地域の木材産業や文化の更なる発展に貢献していきます。

生産性向上実現プログラムの取組



森林資源の成熟に伴い木材需要の拡大と安定供給が求められているなか、中部森林管理局では効率的な生産体制の確立を図るため、平成27年度から「生産性向上実現プログラム」を立ち上げ生産性の向上に取り組んでいます。

昨年は、飛騨市神岡町にあるウレ山国有林(約50ヘクタール)をモデル事業地として設定し、県、大学等研究機関、木材搬出業者等も参画し、生産・品質等の管理を円滑に進めるための業務管理手法(PDCAサイクル)による取組を実施しました。

モデル事業地では、①計画(P)会議で目標生産性の検討、作業道線形等の情報共有を、②実行・点検(D・C)会議を事業実行期間中に開催し、非効率な作業因子を洗い出し、③改善(A)会議で課題・問題点を改善するサイクルにより生産性向上を図っています。この取組で、作業日報の分析などにより、伐木・集材・造林などの各工程ごとの生産性や数量を把握し、ミーティングなどでボトルネックの工程課題を現場にフィードバックすることにより、作業員全員が現状を認識し、計画的な作業配置や工程の見直しを行うことができました。結果として、モデル事業地では目標を上回る生産性(コスト削減)を達成することができました。



4 P会議現地踏査



5 DC会議の様子